

法 光

真言宗御室派

清蓮山森泉寺
〒710-1312
倉敷市真備町辻田二一六二

新聞「法光」は檀信徒の皆様が山
の活動をお知らせすると共に弘法
大師の御教えを分かりやすい言葉
でお伝えする目的で発行します。

梵 音 ～ 除夜の鐘 ～

年の終りに梵鐘を撞いて嫌なことをふっ切りたい人はたくさんいるのではないのでしょうか。除夜に限らず、昔は梵鐘のあるお寺からは、朝な夕なに鐘の音が聞かれたものです。早期に聞こえるのが「暁鐘」(ぎょうしよつ)です。一日の始めにあたり、すがすがしい自覚を促す思いが込められています。夕方に漂う鐘の音は「昏鐘」(こんしよつ)で迷いにまみれた耳、目を洗い清めるのです。大晦日から新年に流れる鐘の音は昏鐘から暁鐘に至ると同じ意味合いを持っています。



お寺にお参りし鐘を撞く時には先ず、合掌一礼し、一度だけ撞き終えてまた合掌一礼します。帰りに鐘を撞いてはいけません。それは家にお邪魔して帰り際に呼び鈴を鳴らして去るようなことになるからです。

では、鐘は何の為に撞くのでしょうか。一時を許すため、行事などの知らせや始まり、区切り

◎『除夜の鐘』…「家族皆々で参拝ください。福引があります。(先着順) 甘酒、ぬず湯もお接待してまいります。



「すべての人々の心が穏やかになるように、大

つまり、物事の「節目」を知らせる事にあつたようです。旧から新への移り変わりという時を告げると同時に、生活上のけじめを付ける意味が加味されたのではないのでしょうか。

その精神的意義づけとして仏教の説く『百八煩惱』をあてはめました。鐘の音には煩惱を消し去り迷いを除く功德があると信じられてきました。

『観音経偈』に説かれている「妙音観世音 梵音海潮音」(清らかな仏の音が、細波のように胸に満ち溢れている)は、鐘声そのものを仏の説法ととらえ、鐘声を仏、菩薩の声と感ずるからこそ煩惱を消し去る功德があるのです。つまり、梵鐘そのものが仏、菩薩なのです。

また、鐘だけでは音は響きません。やはりそれを撞く私たちがいて初めてその働きをなす訳ですから、日々の反省、誓いを胸に撞くことで、自身もまた仏、菩薩と一体であると感じることができるといふことが『煩惱即菩提(仏の心)』としてさらに

地や周囲一帯が浄まりますように」とあなた達の心を添え、優しい心で撞けば撞く程、人々の胸に周囲に仏の鐘声が響き渡ります。『自利即利他』の行ができてくるのです。日々白水の如く湧き起る煩惱を鐘声で浄め、すがすがしい新年を迎えていただくたいものです。

初観音厄除け祈願・撥遣供養

平成二十三年一月十八日(火)午前八時、本堂で祈願の後、木札を授与致します。

(申込締切：一月十日)

◎厄除けご希望の方は申込用紙にご記入の上、お寺にお申し込みください。

◎当日、都合の悪い方は、厄除けご希望の日時をお早めにご予約ください。

◎撥遣供養では古い御札、御守、お飾りなどをお焚き上げ致しますので、当日までにお寺にお持ちください。

涅槃図公開 一月中

一月十五日はお釈迦さまが涅槃に入られた日です。これに伴い、一月中、森泉寺の大悲殿にて寺宝の涅槃図一幅を公開致します。お参りの際に間近でご覧になり、遺徳を偲んで手を合わせていただけたらと思います。

仏生会・花祭り 四月八日(金)

本堂前に花御堂を安置し、誕生佛(お釈迦さま)をお祀りし、尊像に甘茶をかけて誕生を祝います。甘茶をかけるのは誕生されたときに甘露の法雨が降ったという故事に由来します。当日は甘茶のお接待もしていますので是非お参りください。

行 事 予 定

平成二十一年

十二月三十一日(金)除夜の鐘(福引き接待)

(午後十一時五十分～午前一時半)

平成二十三年

一月十八日(火)初観音厄除け祈願(午前八時)

撥遣供養(午前九時)

総代会(午前十二時半)

一月二十日(木)

写経会(午前九時半)

一月二十三日(日) 写経会(午前八時)

一月中 涅槃図公開

二月三日(木) 節分鬼祭り祈禱

一月十八日(金) 観音会(午前八時)

二月二十四日(木) 写経会(午前九時半)

三月十七日(日) 写経会(午前八時)

三月二十四日(木) 写経会(午前九時半)

三月三十一日(月)彼岸会(午前九時半)

四月四日(月)五日(火)四国巡拝(讃岐)

四月八日(金) 花祭り(甘茶接待終日)

四月十八日(月) 観音会(午前八時)

四月二十一日(木) 写経会(午前九時半)

四月二十四日(日) 写経会(午前八時)

五月十八日(水) 観音会(午前八時)

五月十九日(木) 写経会(午前九時半)

五月二十二日(日) 写経会(午前八時)

五月十八日(土) 観音会(午前八時)

六月十三日(木) 写経会(午前九時半)

六月十六日(日) 写経会(午前八時)

七月十八日(月) 観音会(午前八時)

七月二十一日(木) 写経会(午前九時半)

七月二十四日(日) 写経会(午前八時)

※都合により変更させていただきます。

◇毎月の観音会では生花のお供えをくださる方、お勤め後の下座行(奉仕作業)をしてくださる方、いつもありがとうございます。

子ども練成会 七月二十九日～三十日

夏休みの始めに練成会を行いました。参加した十九名の子どもたちは、朝夕のお勤め、掃除、腕輪念珠作り、写仏、茶道、ミニ盆裁、干玉作り、筆供養などを体験しました。また共同生活を楽しみながら思いやり、助け合いの心を養うことが出来たようです。



観音会 毎月十八日

本尊聖観音さまのご縁日に毎月、朝八時から参拝者の方々とご祈願をしています。聖観音さまは滅罪、施餓鬼本尊としての

功徳があると言われる、煩惱にまつわれた日々の生活での行いを懺悔することで、心の垢を取つてくれます。マイナスに傾いた心の状態を先ずはゼロの状態に近づけることがすなわち、心身の浄化、生きる活力の源となるのです。また、餓鬼に施すことは自身や先祖に至るまでその功徳が廻り、家庭圓滿に繋がります。

お寺にはその他、千手観音さま、十一面観音さまもお祀りしており、精神安定、除疫、除災、破地獄、夫婦円満、易産にご利益があります。是非、お参りください。

施餓鬼法要 八月十七日(火)

法要前に副住職結婚を祝し、夫婦が好きな言葉を一枚に心を込めて書いた『散華』を散じました。

散華とは寺院で法要を厳修する時に、諸仏を供養する為にまかれるもので、元来は蓮弁をはじめとする生花が使われてきましたが、現在は蓮の花びらを模った色紙が代用されることが多くなりました。散華には大日如来さまの御朱印を押ししておりますので、手に取られた方はお仏壇にお祀りいただくか、御守としてお持ちください。



此の皆様に「ご参拝をいただき、

各家のご先祖さまをはじめとする諸霊のご供養を勤め、法要後の法話では、広島県廿日市市の

三光院御尊任 奥野隆海僧正の

『心ひとつに幸せにもなり、辛くもなる』

時折、笑いも起こるお話に参拝者は熱心に耳を傾けておられました。



第五回 観月会 十月二十三日(土)

お寺に気軽に足を運んでいただく機会になればと思い、始めたこの観月会も今年で5回目となりました。

当日はお抹茶の接待、大正琴、舞踊の奉納の他、プリランテによる弦楽四重奏があり、参拝者の方々は間近で聴く生演奏に感動していました。作品展示会場には今年も様々な力作が多数並んで、感心される方や新たな創作意欲を掻き立てられる方もおられたようです。

会の始めは曇り空でしたが、終わって帰られる頃にはちょうど東の空に満月が顔を覗かせ、お見送りをしてくれているようでした。

今回もお接待の品の準備や当日にお手伝いくださった方々、作品展示にご協力くださった方々に心から感謝致します。



四国霊場と百観音巡りを終えて

(一昨年前に満願された方の感想文) 定年退職と同時に霊場巡りに足掛け十五力年間、夫婦で欠席することなく参加させていただきました。

白衣姿を鏡に映し用意万端。少しこぼれぬ感じがありました。先輩方として一番霊場に着いて香煙の中で読経にすっかり別世界の人になりました。霊場巡りは人生後半の行と考えていましたが、若い人が多いのに驚きました。

お参りの途中、見知らぬ同行の方から心のこもった優しい励まし挨拶に身も心も溶けあつて険しい詣道にも元氣百倍。浮世離れの時間を過ごすようになり、ひと皮脱いだ人生を味わうことができました。

それ以来、春秋のお参りが待ち遠しくて電話をしたり、道端談義に花が咲いたりしました。友達も次第に多くなり、また不思議と天候にも恵まれ、寺院内外の尊厳さに心ひかれ、楽しみ多いお参りができました。国宝の名所旧跡も心を奪われるばかりでした。その度に「ごに森泉寺様、皆様から多くの写真を頂き、思い出に浸っております。宝物になりました。本当にありがとうございます。」

ダイヤ婚夫婦結婚六十年

※参拝者の方々の体験や感想を募集しています。

今後の巡拝の参考にさせていただきます。より良いお参りができるよう、努めていきたいと思っておりますので、お気軽にお寺までお寄せください。また感想文は次号以降の新聞に掲載させていただきます。

四国八十八ヶ所霊場巡拝並びに
ぼけ封じ三十三観音霊場巡拝のご案内
平成二十三年四月四日(五)・五日(泊日)

今回の讃岐一國参りで四国霊場八巡目
結願(ぼけ封じ)も結願を迎えます。途中か
らでも大歓迎ですので、一緒にお大師さま
の足跡にご加護に触れる旅に参加してみま
せんか?お誘い合わせの上、お申し込みく
ださい。*日程並びに申込書は後日お配り致します。



日常生活に関係の深い神さま

仏教で「天部」の位におられる神さまは、
如来、菩薩、明王の次の位になり、人間によ
り近く、様々な願い事を即座に聞いてくだ
さるので、古くから親しまれ庶民に厚く信
仰されてきました。しかし、現在ではその
存在さえ知らない方も増えてきています。
少しでも知っていただく為、なかでも身近
な神さまをご紹介します。

地神

神社の管理を
受けず道端や街
角に自然石や祠
を建ててお祭り
されている大切
な神様です。土
地や屋敷の神さ
まで地主神(シ
ヌシガミ)、地神(ジシン)、シガミなどと
呼ばれています。屋敷神の一種として宅地の
一隅や隣接する場所に祀られる場合も多
く、中には家代の祖霊を祀ったりしている
場合もあります。



氏神

氏神とはもともと、古代社会で血縁的な
関係にあつた一族がお祭りした共通の神様
のことで、その一族の先祖神だったり、その
一族に由緒深い神さまだったりすることが
多かったです。

産土神(うぶすながみ)

産土とは生まれた土地、本拠などの意味
で、その土地を守護してくれる神さまが産
土神でした。古来稲作を中心にしてきた日
本では一か所に定住して集落を営み、共同
作業によって稲作に励みました。このした
集落を守ってくれる神さまが産土神です。

昔からこれほど身近な存在でありながら、
ひっそりと祀られているこれらの大切な
神々に気付いていただき、感謝の心を向け
てお祀りくださればと思います。

写経会 三十周年

近年の研究によると、写経は科学的にも
脳にとても良い効果をもたらすようです。
なぜなら、お経を読むことで先ず目で見
ること、自らの口より音を発生すること、
聞くことが同時に出来、さらに実際に書写
することで筆が紙の上を走る筆圧、感触、
そしてお香のよい
香りを嗅いで心を
定(やす)めること。この
六つの要素が一か
に凝縮されている
からです。



当山では昭和五十五年三月より三十年
に渡り般若心経の写経会を行っています。
月に一回、お寺の客殿で朝の清らかな静寂
の中、

読経、法話、写経、祈願

という内容で行っています。
平成四年にはその浄財により「大日如来
像」を京都の松久宗琳仏所に依頼し謹刻し
ていただき、現在は大悲殿にお祀りしてい
ます。

写経に興味のある方は先ず、お寺にお問
い合わせの上、お気軽にご参加ください。

写経奉納料 一巻 壹千円



大日如来

写経奉納者御芳名(敬称略)

五百巻奉納

・浅沼すみ子・川田正幸・中井美子

四百巻奉納

・高杉喜美子・妹尾鏡子(亡)

・小西節子・山崎聡・浅沼道子

・浅沼和女

三百巻奉納

・佐野美津(亡)・堀口近礼(亡)

・小西登美枝・浅沼裕子・亀井山伸子

・中山清美・松王静恵・渋谷政子

二百巻奉納

・渋谷裕(亡)・亀井山俊光

・中山謙一(亡)・高杉百夫(亡)

・枝松安男(亡)・若田富貴子

・浅沼美喜恵・中村佑子・信定紘子

・浅沼静野・浅沼百代・中山春恵

・佐野育子・吉岡早苗・瀧本幸

・堀口次女・松田俊子・藤田栄子

・浅沼敏子・渋谷愛子・三宅敏子

・木下由美子

百巻奉納

・小西熊夫(亡)・小西菊代(亡)

・小西千歳(亡)・妹尾太郎(亡)

・中井忠孝(亡)・三宅平八(亡)

・浅沼健(亡)・浅沼利津恵

・横浦多津子・安永ハツ子

・檀原美知子・若田始(亡)・小野波子

・浅沼松江・主置ヒロ子・阿久根素子

・瀧本亮一・佐野礼子・原田達美

・藤田裕代・山崎光子・山崎宏子

・原田和代・三宅英子・佐野緑

・堀口千尋・笹岡正弘

右、平成二十二年十一月現在まで

※節分星祭り祈禱の御札お申し込みはお早めをお願いします。(締切り:一月十八日まで)

感謝

日頃より奉仕で境内および周辺、焼却場の掃除やお地藏様へ生花をお供えくださる方々、ありがとございます。

般若心経とは？

在家の方でもよく知っているお経の一つで、法事や四国遍路など巡拝するときによく唱えられています。

一般的には「空」の真理を述べている經典で、慈悲と救済を特色とする観音菩薩の深遠な智慧の完成が説かれていると考えられています。



しかし、弘法大師空海は「般若心経秘鍵」の中で般若心経は偉大な智慧を象徴する真書を説いている。その「心経」は大般若菩薩(すべての仏の智慧を生み出す母なる仏)が瞑想の境地で示した如来の智慧を表しているといわれています。

伝 道 板

鳥獣草木の

音声は

すべて

仏の言葉である

『性霊集』巻第三

心への贈り物

二十世紀は物質の時代。二十一世紀はこの時代の言われ、はや十年を過ぎました。しかし私たちの心が豊かになったかと言いつつ逆のように感じます。

「心」で何かのきっかけとなればよい。一冊の本を紹介したいと思います。「いのちのおはなし」これは小学四年生(十才)くらいの子どもの対象として出版された絵本ですが、内容は大人も考えさせられるような、心温まるお話です。



この本の筆者でもある日野原重明さんという齢九十五歳にもなる病院の現役の先生が、子どもたちに「命とはなにか」というテーマで授業をされています。

誰しもいのちについて考えたことがあると思います。我々僧侶も特に人の死を見つめることの多い立場ですから、その機会はたくさんあります。お釈迦さまが言う「生老病死」の苦はこの世に生きる全ての者が必ず体験しなくてはなりません。逃れたくても逃れられない苦しみです。しかし、普段は意識しない方が殆どだと思います。いつかは滅びる身であること知っていながら、自分が存在し生きていることが当たり前のように日々を過ごしているのではないのでしょうか。

「この本のいのちの授業では「いのちがどこに存在するのか、子どもたちに問いかけます。聴診器で隣同士の友達の内音を聞き、「毎日脈打つ心臓だ」「いろんなことを考える脳だ」とか「体全部」とか様々な答えが返ってくる中で、先生は「うなずけます」。

「いのちがもたらした時間」時間というものをどう使っていますか。自分の時間を持っている。時間を使う。いのちがもたらした時間です。

「この本を読んだ私自身もハッと気づかされたような気がしました。一日一日の時間の中にいのちがあることを考えず、どれだけ粗末にしてきたか...また、どれだけたくさんの方々のいのちを使い、助けられてきたことか...

お大師さまの言葉「菩薩の用心は、みな慈悲をもって本とし、利他をもつて先とす。よき心の住む浅灘を破って深教に入るは利益もつとも広い。」とあります。

日野原先生が自らのいのちをこれからの子ども達の為に使い、心に直接響く授業をされている姿はまさにこの菩薩行であると感じます。今、この瞬間をどう生きるか、このいのちの時間を大切にすることは自身だけでなく、家族や周りの人のいのちを尊重することにもなり、心の安定にも繋がります。興味のある方は是非、読んでみてください。また、子どもさんやお孫さんへの素敵なプレゼントにもなると思いますよ。

平成二十三年年度年忌表

一周忌	平成二十二年亡
三回忌	平成二十一年亡
七回忌	平成十七年亡
十三回忌	平成十一年亡
二十二回忌	昭和六十四年亡
二十五回忌	昭和六十二年亡
三十三回忌	昭和五十四年亡
三十七回忌	昭和五十年亡
五十回忌	昭和三十七年亡
七十回忌	昭和十七年亡
百回忌	明治四十五年亡

右表をご参照の上、年忌法事をお申し込みください。なお、土日、祝日ご希望の方はお早めにご連絡ください。

卯年生まれの守り本尊

文殊菩薩 乾差跨起誇

文殊菩薩の徳性は悟り入到る重要な要素、般若智慧である。尚、本来悟り入到るための智慧という側面の延長線上として、一般的な知恵(頭の良さや知識が優れること)の象徴ともなり、これが後に三人寄れば文殊の智慧といいつつわざを生むことになった。

